

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①基本構想（部会素案）について、②施策体系について

◆審議概要：

①基本構想（部会素案）について

【スローガン】

- 「タカラ ミライ ラボ」参加者と一緒につくったというニュアンスも込めて、『タカラ ミライ ラボ』の提言書の中で」とシンプルな表現にしてはどうか。
- 「わたしたちの舞台」としたほうが連帯感、協働感があるのではないか。
→語呂の良さや市民全員一人ひとりに舞台があることを踏まえ「わたしの舞台」と表現している。

【まちづくりの視点】

- （1）、「主体」という単語がグループ、団体のイメージが強い。一人でも動けば仲間が集まり、色々なことができるというメッセージを発信することが重要ではないか。
- （2）、子ども、高齢者、障碍（がい）者など、具体例が上がっているが、ここに含まれていない人は大した問題でないとと思われるので、省略した方が良くはないか。
→具体例がないとイメージがしづらいので、あっても良いのではないか。
→年齢や性の違いや障碍（がい）のあるなしなど、様々な立場の方を表現する方法も考えられる。
→まちづくりの視点で細かく記載する必要があるかの視点も持ち、事務局で検討いただきたい。
- （3）、「経営資源」という単語が行政用語に感じる。砕いた表現にしてはどうか。
- （3）、「経営資源の効率的かつ広域的な配分」と「市民ニーズの変化を的確に捉え」という言葉が一致しない。フレキシブルに支援するという行政のスタンスが必要ではないか。

【将来都市構造の基本的な考え方】

- 環境変化に対応した産業転換についての視点を入れる必要があるのではないか。
→従来型の都市計画になっている。暮らし、産業を支える基盤をつくっていくという視点が重要。

【めざすまちの姿】

<共通>

- 10年後の姿であることを記載してはどうか。
- 基本構想は市民と市の共有物。市が表に立たないような書きぶりにするべきである。全項目について、再度その視点で記載しているか確認をしてもらいたい。
- 現状認識にある「本市」という表現方法が硬い。

<都市経営>

- キャッチフレーズ、「ともに創り」について、「市民と行政が」の主語を入れた方が良いのではないかと。
→キャッチフレーズに入れるとやぼったくなるので、注釈で解説を加える。
- 「・」3つ目、「対話と交流」を「交流と対話」に順番を入れ替える。
- 「・」5つ目、「危機」とはどのような危機を指すのか。補足した方が良いのではないかと。
→命や生活に関わるなどが考えられるが、事務局で検討いただきたい。
- 「・」6つ目、「人口減少社会、少子高齢化など、社会構造が変化」を「人口減少、少子高齢化など、社会構造が変化」にした方がすっきりする。

<環境>

- キャッチフレーズ、「ともに」について、「市民と行政が」の主語を入れた方が良いのではないかと。
- 「・」1つ目、「芸術文化に育まれた景観」とは何か。伝わりにくい。
→文化景観、歴史景観などの言い方はあるが、○○景観の定義を再度確認し、整理が必要。阪神間モダニズムや宝塚歌劇など、宝塚ならではのニュアンスが伝わるようにしてもらいたい。
- 「・」4つ目、「省エネルギーや再生可能エネルギーの導入が進んでいる」を「省エネルギーの取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる」としてはどうか。
- 「・」4つ目、地球温暖化対策のためにというキーワードを入れてはどうか。
- 里地と里山との連続性、山と水辺の連続性を大事にするという視点を記載したい。生き物が行き来できず絶滅してしまっている。
→循環と共生が成立する環境をしっかりと作っていくという視点を記載してはどうか。
→生物多様性のキーワードを入れてはどうか。
→生き物だけでなく、人間生活も含めた循環と共生。生態系と人間生活をつなぐ社会づくりの実現といった書きぶりを検討してもらいたい。
- 現状認識の右上、「里地里山」に加えて、「まち山」も加えたい。
- 現状認識の左下、「持続可能な社会に向けた取組が世界で広がっている」とあるが、世界中で取り組まれていることが、宝塚でも広がっていると表現した方が良いのではないかと。

<観光・文化・産業>

- キャッチフレーズ、「宝塚ならではのにぎわいがあふれ」について、平仮名が続き区切りが分かりにくい。また、「宝塚らしい"にぎわい"や魅力があふれ、人が集うまち」にしてはどうか。
- キャッチフレーズ、文化のニュアンスを加えてはどうか。
- 「・」3つ目、「新しい産業が成長している」について、宝塚らしい産業を考えていく必要があるのではないかと。例えば、芸術文化やアニメなど。あやふやな表現では、面白くない。具体的に方向性を打ち出すことが必要ではないかと。
→現在、産業振興ビジョンの作成に着手している。現段階で10年後の産業を決めてしまうのはどうかと思っている。具体的には書きづらい。
→10年後に総括できるようにするという観点も大事である。
→住宅都市を標榜する宝塚の一つの方向性として、コミュニティビジネスという一つの暮らしをベー

スにした新しい産業創出のモデルができるのではないか。宝塚の特性や個性に合わせた起業、創業が盛んになるという文言で表現することも考えられる。

- 「・」6 目、消費生活の内容について、他に比べて具体的過ぎるので、レベルを合わせる必要があるのではないか。
- 「・」7 目、「発信者となっている」について、発信者にならないといけないという誤解を招くのではないか。日々の暮らし自体も芸術・文化であることに気づいてもらい、それぞれが自分の立場で楽しむ。それが大きな芸術・文化となり、宝塚全体で発信できていくというニュアンスを入れたい。
→日々の暮らしが生み出す文化も大切にするということ。身近な生活から考えていくという観点。
- 宝塚北サービスエリアで手塚治虫グッズの人気の高い。手塚治虫記念館に大きなポイントを置いてはどうか。

【その他】

- まちづくり基本条例で、まちづくりは市民と行政で行うことが定められているので強調したい。
- 基本構想は市民も一緒に共有する部分であることを記載する必要がある。
- 動ける人が少しずつ手を出し、社会を動かしていくことが協働、新しい公共の考え方であると思う。今回の総合計画の一番土台となる考え方であるので、初めのところで強調したい。
- 市民と行政のお付き合いの仕方を変えていかないといけない。本当の意味での協働をつくっていくことが重要。
- タクティカル・アーバニズムという考えがある。小さな試みを繰り返しながらまちの魅力を作っていく。ボトムアップ、リレー的な戦略。プレイスメイキングという言い方もあり、行政が懐深く認め、まずはやってみようというスタンスをとる。基本計画の協働あたりで検討いただきたい。

②施策体系について

- 消費生活が、この分野にあることに違和感がある。安全・都市基盤の方がなじむ。
- 健康とスポーツがかなり近い分野。一つの枠に固めることによって、違う部局の相互作業を意識してもらうことにもなるのではないか。
- 施策の社会教育について生涯学習と表現するか検討してもらいたい。